

【歴代会長祝辞】

30年を振り返り

第6代会長
北森 秀希

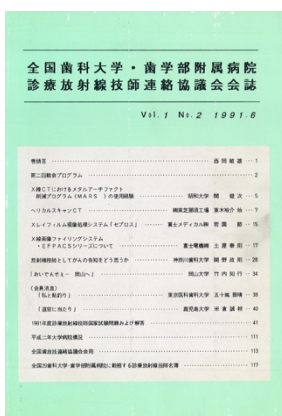
全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会設立の流れは、1987年5月に関東地区にて始まり、その後全国的な歯科大学の診療放射線技師の集まりを創ろうという動きが始まった。同年11月開催の第28回日本歯科放射線学会総会（広島市）開催時に当時の広島大学砂屋敷技師長のお世話で学会参加者による全国の歯科大学に勤務する診療放射線技師の集まりが開催され、翌年1988年第29回日本歯科放射線学会総会（札幌市）開催時には、現北海道医療大学 輪島技師長のお世話で同様の会が開催され、自然と全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会設立に向けた世話人会が発足した。1988年第30回日本歯科放射線学会総会（鹿児島市）開催時に鹿児島大学 米倉誠耕技師長のお世話で長年の夢であった全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会設立総会（東急ホテル内「海らく」にて午後9時～11時、18名参加）が開催され設立を承認され、初代会長に日本歯科大学 西岡敏雄技師長、副会長に広島大学 砂屋敷忠技師長、会計監査に米倉誠耕を選出致しました。

翌年平成2年7月21日、22日に東京医科歯科大学 五十嵐雅晴技師長のお世話で第1回総会・歯科放射線技術研修会が開催され、会長 日本歯科大学 西岡敏雄技師長、副会長 広島大学 砂屋敷忠技師長以下、役員（幹事）が決定し、全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会総会・歯科放射線技術研修会の歴史の幕が開きました。平成5年7月10、11日に九州大学で開催された第4回総会・歯科放射線技術研修会時に大会長の九州大学 加藤誠技師長が折角全国の歯科大学附属病院に勤務する診療放射線技師が年1回集まっているのだから記念に集合写真を撮ろうと言われ、皆で「恥ずかしいなあ～」と言いながら集合写真を撮影したのが、現在の集合写真撮影の始まりです。その後集合写真だけではなく、総会・研修会の様子も写真撮影されるようになり、現在連絡協議会会誌事後抄録号にも掲載されるようになりました。

会誌も当初は日本大学 丸橋技師長（第5代会長）が西岡敏雄初代会長や田中守第2代会長の元で四苦八苦しながら作成されていたと記憶しております。会誌のデザインも徐々に変わり現在の会誌のスタイルが出来上がりました。



第1号



第2号



第15号



第56号

会誌の内容も充実してきてページ数も増え、会の会計を圧迫するようになって来て、平成 23 年に会誌印刷会社の見直しを行い、鶴見大学 三島章現副会長のご努力により現在の印刷会社に変更を行いました。昔は原稿を集めるのに大変だったのですが、現在は原稿が多過ぎて次号へ回すという嬉しい悲鳴をあげています。また会誌の中に企業製品コーナーがありますが、会員の皆様へトピックス的な情報を早く提供するために複数の企業様にご協力頂き、継続して情報提供を行っております。

平成 30 年で全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会も創立 30 年を迎えました。これも我々を導いて下さった諸先輩方の功績の賜物だと感謝申し上げます。更に忘れてならないのは連絡協議会会員、企業の皆様のご協力とご支援のお陰で 30 年という歴史を築く事ができたと感謝申し上げます。創立 30 年記念祝賀会の時に出席いただいた名誉会員の先輩方からもう次は無いか？と言われましたが、創立 40 年記念式典時にも是非私も含めて皆で元気な姿でお伺い致しましょう。

口腔・顎顔面領域撮影の専門性も各種学術団体で認識されています。これからは皆様のお力で次のステップに是非進んで頂きたいと思います。また逆に歯科領域だけではなく医科領域の撮影にも目を向けて下さい。

歴代会長

- 初代会長 西岡敏雄 先生
- 第 2 代会長 田中守 先生
- 第 3 代会長 角田明 先生
- 第 4 代会長 片木喜代治 先生
- 第 5 代会長 丸橋一夫 先生
- 第 6 代会長 北森秀希
- 第 7 代会長 笹垣三千宏

平成 30 年 6 月 30 日開催の総会にて笹垣三千宏 第 7 代会長が承認され、次の新執行部がスタートしております。今後益々の全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会の発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を祈年して私のご挨拶とさせていただきます。

創立 30 年から次の階段 「それは一步を踏み出す事」